

人材育成に関する目的

化学専攻は、物質に関する幅広い知識と物質の取扱方法に関する深い理解を習得させ、主体的な研究課題設定と課題遂行能力及びグローバルな成果発表能力を養うことで、物質に関わる自然現象の真理を追求するための高度な知識と教養に基づいた独創性豊かな研究者・技術者・教育者を育成する。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラムポリシー]

修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「研究指導」により、より高度な専門的知識と実験技術の習得並びに現代社会における様々な問題点を認識・解析し、それらに対処する総合的な能力を開発するための教育課程を編成する。

(1)「専門科目」では、物理化学、無機及び分析化学、有機化学の専攻分野を横断した、①分子集積・分子科学、②エネルギー・環境化学、③機能・生体材料化学、④合成・反応有機化学、等の授業科目を重点的・効果的に配置する。

(2)「一般教養科目」では、幅広くかつ深い学識を涵養する授業科目、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等を養う授業科目を配置する。

(3)研究指導の過程では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通じて、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、研究者又は高度職業人として国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する教育を行う。

